

# A I 慣れによる「考える力」の低下対策

## - 批判的思考力強化のご提案 -

### A I 慣れによる弊害

今やA Iは誰しもが使う便利なツールになりつつあります。しかし、それによって危惧されるのは、日本人の「考える力」の低下です。企業においても今やA Iは様々な場面で使用されています。例えば、業務効率化のための導入は代表たる例でしょう。すでに日本では4～5割の企業がA Iを導入しているとも言われています。しかし、便利な反面、これに頼りすぎると自分の頭で考えるプロセスが奪われてしまい、「考える力」がどんどん低下してしまっているのです。例えば、ある営業マンは、お客様への謝罪トークや営業トーク、商談プロセスをA Iに教えてもらっていると言います。また、A I依存は企業においてだけでなく、学生や子供においても「考える力」を奪いかねません。ひどい場合、学校のテストの答えも調べることができてしまうでしょう。今後、このA I世代が社会人となる時のことを考えると、今から教育方法を考え、行っていくことが不可欠なのかもしれません。

### 「考える力」を鍛えるためには

A Iによる「考える力」の低下が危惧されるようになり、今注目を集めているのが、**批判的思考力**です。これは、「自分が得た情報をしっかりと分析し、客観的に評価し、最適な判断を下す能力」のことを指し、ある研究によれば、批判的思考力が高い人ほど問題解決や意思決定がうまくできる傾向にあると言います。そして、この能力を高めるためには、情報を分析し、論理的に評価する能力を養うことが重要です。その基本的なステップは以下の通りです。

1. 問題を明確にする：何が問題か、何を考えなければいけないのかをはっきりさせる。
2. 情報を収集する：信頼できる情報源から、問題解決に必要な情報を集める。
3. 情報を分析する：集めた情報を細かく分けて考え、関連性や信頼性を評価する
4. 結論を出す：分析した情報から自分なりの答えを見つけ、論理的に判断する。
5. 行動する：見つけた答えに基づいて実際に行動し、その結果を観察する
6. 結果を振り返る：行動した結果を振り返り、次にどうするかを考える。

なお、上記プロセスに基づいてトレーニングを行おうとする場合、よくあるゲーム形式のものや、架空のテーマを扱ったものでは、実践的な思考力強化とはならないでしょう。トレーニング後に現場でどう活かすべきかが不明確となりやすく、行動に移せないからです。そのため、今自身が置かれている環境・状況から問題を明確化し、結論（解決策）を出した上で、翌日からすぐに現場で実践できる教育とすることが何よりも大切です。

弊社の研修では、机上の空論となるテーマ等でのトレーニングは行いません。各会社のご事情に合わせて研修内容を作成するため、翌日からすぐに実践し、批判的思考力を強化することが可能です。なお、お打合せ等には費用は一切かかりません。

研修内容等、ご興味のある方は下記リンク、またはQRコードよりぜひお問い合わせください。

> お問い合わせはこちら

